

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 11 月 15 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3891400016
事業所名	グループホームあいの里
(ユニット名)	さくら
記入者(管理者)	
氏名	萩尾 弥生
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 30 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 あいの里はみんなが一つの家族です。助け合い、支え合い、励まし合い、温かな、明るい笑顔のある家庭を目指します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・利用者ひとり一人の暮らしや様子や個別に支援した内容の記録が少ない。スタッフ間で内容の統一が出来ていない。利用者の発する言葉や表情など具体的な記録が少ない。職員間の差をなくす。 目標：マンネリ化を防ぎ、日々の様子、言葉、表現など具体的に記録に残す。ひとり一人の日々の様子を具体的に記録に残すようにする。 結果：職員間で記録内容を検討し、統一できるようユニット会等で話し合った。介護記録の書き方を話し合い、利用者の発する言葉を書き、スタッフ間で確認できるようにした。 ・重度化、終末期のあり方についての方針を共有できていない。 目標：出来る限りホームで過ごせるよう支援する。 結果：職員会で終末期ケアの研修を行っていく。医療機関と連携を取りながら支援していく。日常生活の中で、終末期のあり方について、本人や家族と話し合い対応していった。 ・災害を想定した避難訓練を年2回実施しているが、家族から災害時の対応などの理解が低い。 目標：災害時の対応を日頃から訓練していく。家族にも災害時の対応を周知してもらう。 結果：災害を想定した訓練の様子を広報誌等に掲載し、家族への手紙で発信した。運営推進会議開催時や家族会開催時に、避難訓練を実施した。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 広々とした田畑に囲まれ、高台にある事業所は、窓から山々を眺めることができるなど、利用者は自然を感じながら、ゆったりとした生活を送ることができる。敷地内にある畑では、利用者に手伝ってもらいながら、様々な種類の野菜や花が栽培され、成育や収穫作業を利用者は楽しみにしている。隣地にある畑の持ち主が、利用者の知り合いという縁から、交流も行われている。コロナ禍以前には、事業所に増設したステージのある交流館を活用して、カラオケ大会を開催したり、演芸のボランティアを招いたりするなど、近隣住民との交流を兼ねたイベントの場として活用されていたこともあり、管理者は、「感染対策の制限緩和に伴い、交流館を活用した活動を再開したい」と考えている。また、感染対策が緩和され、家族会が再開されたほか、タブレットを活用したオンライン面会や、玄関スペースや屋外を活用した対面の面会にも対応できるようになっている。訪問調査日の職員の聞き取りから、「風通しが良い職場で、相談しやすい」という意見を聞かれるなど、代表者や管理者を中心に、働きやすい職場環境作りが行われ、長年働く職員も多くなっている。</p>
---	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	個々の意向、希望の把握に努め、できる範囲で叶えてあげられるよう支援している	◎	/	◎	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日々の生活の中で本人の思いに気づくよう努めている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	本人の思いを入居時や面会時に家族から聞いて確認している	/	/	/	入居前に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、思いや意向などの聞き取りをしている。また、日々の関わりの中で、利用者から思いを聞くことも多い。重度の利用者には、職員から積極的に声をかけ、表情や行動から思いをくみ取るよう努めている。
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	個人ファイル、日誌に記録し、共有できる様にしている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	利用者との関わりを日々の生活の中で持つようにしている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	今までの生活の様子を本人、家族に聞き、馴染みの物を大事にしている	/	/	◎	入居前に、家族に生活歴などの基本情報を記載してもらっている。入居時にも、アセスメントシートを活用して、利用者や家族から生活歴やこだわりなどの情報を聞いている。また、把握した内容はアセスメントシートに取りまとめ、職員間で共有をしている。さらに、日々の生活の中で、利用者から新たな情報を聞くこともあり、新たに知り得た情報はアセスメントシートに赤字で追記することができている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	本人の思いを大切にし、声を掛けながらできる事を手伝ってもらっている	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	一日の生活の様子を日誌に記録し、職員で共有している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ケア会議で本人、家族の思い、意向を確認しながら検討している	/	/	○	事前に把握した利用者や家族の意見のほか、職員から出された意見を集約し、月1回実施する職員会議やユニット会議を活用して、職員間で利用者の視点に立ち、良い支援に向けて検討をしている。訪問調査日には、一人ひとりの利用者に対して、課題の解決策等を検討した会議録を確認することができた。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	より良い生活が送れるように、職員会議等で話し合い、意見を出し合っている	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いや要望を、日常生活の中やケアプラン更新時に聞いている	/	/	/	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	利用者の担当を中心に、気付き等をケア会議や職員会等で話し合っている	○	/	○	事前に、利用者や家族から意見を聞くほか、医師に相談して指示やアドバイスをもらい、把握した情報をもとに、月1回のユニット会議の中で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、話し合われた内容は、担当者会議の記録に残し、利用者から出された意見を内容に反映することもできている。コロナ禍や感染対策が続いたこともあり、家族等の参加を促しているものの、会議への外部からの参加は少なく、事前に意見を聞くことが多くなっている。
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	生活住環境など、本人の意思を日々の生活の中で聞いて対処している	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	イベントや行事等の時には、地域の方や家族に参加してもらい協力してもらっていたが、今は、コロナ対策で出来ていない	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	本人や家族の意見を聞きながら、カンファレンスを行い、6ヶ月毎にサービス計画を見直し話し合っている	/	/	/	○ 介護計画は個別ファイルに綴じられ、職員はいつでも確認することができるようになっている。計画をファイルに綴じる前には、必ず職員に回覧し、内容を周知するようにしている。また、介護記録の様式には、上段に介護計画が転記され、留意事項を記載するなど、職員が計画やサービス内容を確認しやすいように工夫されている。さらに、評価欄が設けられ、サービスの実施の有無を○×印を付け、日々計画に沿ったケアが実践できたかどうかを確認している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の生活状況を記録し、介護記録にプランを記入し、職員間で状況の確認をしている	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	介護計画、サービス計画の見直しを6ヶ月毎に行わない見直しを行っている	/	/	/	◎ 計画作成担当者を中心に、介護計画は、6か月に1回見直しをしている。月1回のユニット会議を活用して、変化のない場合を含めて、利用者の現状を確認している。骨折など、大きな状態の変化が見られた場合は、随時計画の見直しをしている。訪問調査日には、1か月間入院した後に、利用者の状態に合わせて、内容を更新した介護計画を確認することができた。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月ケア会議を開催し、介護計画の見直しを行っている	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の状態に変化があった場合には、家族に連絡し介護計画の見直しを行っている	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	緊急案件がある場合は、臨時的ケア会議を開催し、話し合いを行っている。ケア会議は、毎月行っている	/	/	/	◎ 月1回、職員会議やユニット会議を実施し、利用者の現状確認や課題解決に向けた話し合いをしている。緊急案件のある場合には、その日の出勤職員でミニカンファレンスを開催し、支援方針などを決定している。会議にはなるべく多くの職員の参加ができるように、毎月25日18時30分から開催日時を固定していることもあり、現在は、ほとんどの職員が会議に参加することができる。職員が欠席した場合には、後日議事録を回覧して、記録を確認してもらうことができている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	毎月開催されているユニット会や職員会で、自由に意見が言えるよう職員一同心掛けしている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるように開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	多くの職員が参加できるように開催時間を工夫している。当日参加できなかった職員にも、会議録で内容が確認できるようにしている	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日々の様子を個別に介護記録、業務日誌、支援記録に記入している。重要な情報は、申し送りノートを活用している	◎	/	◎ 日々、申し送りを口頭で実施するほか、申し送りノートや業務日誌等の中に、必要事項を記載し、職員間で共有をしている。申し送りノートなどの確認後に、職員はサインを残す仕組みづくりができている。また、業務日誌には、夜勤者が赤字で記載するなど、情報が伝わりやすいように工夫をしている。	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者の重度化、高齢化で難しくなってきたが、希望を聞いて叶えられるように努力している	/	/	/	レクリエーションへの参加の有無、飲み物の種類や温度、着る服など、様々な生活の場面で、職員は利用者へ声をかけ、自己決定を促せるよう支援している。また、食器拭きや洗濯物たたみなどを手伝ってもらった場合には、職員から、「ありがとうございました」と必ずお礼を伝え、日々利用者が活き活きとした生活を送れるような配慮も行われている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	日々生活の中で、自己決定や選択できる機会を作っている	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人一人のペースで生活できるよう声掛けし支援している	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	レクリエーション、リハビリ体操、塗り絵等活用して行っている	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人に寄り添いながら、本人に合った生活が出来るように、表情や意思をキャッチするよう工夫している	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	利用者のプライバシーを大切に、利用者に寄り添いながら声掛け誘導を行っている	○	○	○	年2回、人権や尊厳などをテーマに取り上げて内部研修を実施し、職員は理解をしている。気になる言動が見られた場合には、職員同士で注意し合うなどの対応をしている。また、職員は居室を利用者のプライバシーのある空間と認識し、必ず入室する際に、ノックや声かけをしてから入室できるように、職員への周知徹底が図られている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴や排泄時には、戸やカーテンを閉め、プライバシーに配慮しながら介助を行っている	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は、ノックや声掛けを行い入室するようにしている	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報取り扱いについては、職員会等の研修会で理解し遵守している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者に出来そうなことを手伝ってもらったり、助けてもらった時は、感謝の気持ちを伝えるようにしている	/	/	/	食卓やソファが置かれた共用空間で、言い合いなどのトラブルが発生しやすく、利用者の配席を考慮したり、トラブルが起こりそうな場合には、職員が早期に間に入るなど、見守りながら、未然に防げるよう取り組んでいる。また、トラブル防止のため、利用者同士の関係性や性格を考慮し、食事の際などの席替えを行うこともある。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士で会話や食事が楽しく出来るよう環境を整えている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者同士のトラブルが起きた時は、職員が間に入り対応している	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルにならないよう座席など配慮している	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居時や面会時などに、家族や本人に話を聞いている	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	知人や友人が面会に来てもらえるよう対応している	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	利用者の希望で買い物に行ったり、外出したりしている。戸外に一人でできる方は、自由に行ってもらっている	○	○	○	日頃から、屋外に出て外気浴や体操をしたり、敷地内にあるベンチに座っておしゃべりしたり、事業所周辺の散歩に出かけるなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。敷地内にある畑で、法人の会長と一緒に、野菜作りを手伝う利用者もいる。また、家族の協力を得て外出をしたり、季節ごとに自宅に帰って衣替えの服を取りに行ったりすることもできている。また、コロナ禍や感染対策が続き、外出制限も設けられていたが、対策が緩和され、年間の行事計画に沿って、季節の花を見に行くなど、徐々に以前のような外出支援ができるようになってきている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	家族の人に外出支援をしてもらっている人もいる	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	内部研修会で認知症について勉強会を行い、一人一人の状態に応じて対応している	/	/	/	事業所では、利用者のできることやできそうなことの把握に努め、可能な限り、できることは自分でしてもらっている。また、日常生活の中に、散歩や体操を取り入れるほか、基本的に利用者自らが洗濯物たたみをしてもらうなどの生活リハビリを取り入れ、利用者の心身機能の維持を図れるよう支援している。現在、1階の利用者は重度化に伴い、手伝いなどをしてもらうことが難しくなっているが、2階には、積極的に食器洗いやお盆拭きなどを手伝う利用者も多い。中には、自宅に帰ることを目標に、食器洗いなどの家事に励む利用者もいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活の中で生活リハビリを行う事で、機能維持に努めている。月に1回の訪問診療時に、主治医の指示を仰ぎながら支援している	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	軽作業や自分の洗濯物を畳んでもらったり、日常生活の中でできる事を手伝ってもらっています	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者が希望するやりたい事、軽作業が出来るように、日常生活の中で把握し提供している	/	/	/	塗り絵やパズルなどのレクリエーションのほか、洗濯や掃除、食後の片付けなどの様々な場面で、職員は声をかけ、楽しみごとや得意な役割や出番を担ってもらえるよう支援している。訪問調査日には、主体的に食器洗いや清掃などの家事を行う利用者の様子を見ることができた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	新聞折り、塗り絵、パズル等やりたい事、できる事を利用者を選択してもらえよう対応している	○	◎	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	訪問美容により好みの髪型になるよう整髪してもらっている。家に帰った時などに、馴染みの店でカットやパーマをかけている方もいる				起床時に、職員は声かけ、自分で服を選び、身だしなみを整えることができる利用者もいる。洋服の汚れや整容の乱れが見られた場合には、利用者のプライドを傷つけないようにさりげなくフォローしたり、居室に移動して、着替えてもらったりするなどの対応をしている。また、重度の利用者も、居室のみで過ごすことなく、可能な限り、毎朝好みの服に着替えてもらい、共用スペースに出て過ごしてもらうなど、メリハリのある生活を送ってもらいながら、本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	入浴準備など自分でできる方は、好みの服を選んでもらっている				
		c	自己決定がにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している	○	自分で決められない方には、声掛けしながら決めてもらえるように支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	外出時や行事等に参加するときは、好みの服を着てもらえるように支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくてカパーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	服が汚れているときは、プライドを大切に更衣してもらっている。週2回以上入浴できるように対応している	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家に帰った時などに、馴染みの店でカットやパーマをかけている方もいる				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	訪問美容の方に整髪してもらったり、起床時に自分の好みの服を着てもらえるよう対応している			◎	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は、利用者の一番の楽しみで有ることを理解している				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	利用者の重度化で調理や後片付け等出来る人が少ないが、できる事を手伝ってもらっている			○	以前のメニューを参考にし、利用者の好きなメニューを取り入れながら、管理者が一定期間の昼食の献立も作成し、夕食は調理担当職員と、朝食は夜勤者が献立を考え、順番に調理をしている。食材は買い出しに出かけるほか、業者に配達してもらい、敷地内の畑で収穫したレタスや大根、里芋などの旬の野菜を取り入れた食事は、利用者の楽しみに繋がっている。利用者の重度化に伴い、できることは少なくなってきているものの、可能な範囲で食事の後片付けや調理の下ごしらえなどを手伝ってもらっている。アレルギーの有無は、入居時に確認し、苦手な食材を含め、代替えの食材を用意することもある。食器類は、事業所で用意した使いやすい物を用意して使用するとともに、希望に応じて、自宅から使い慣れた物を持ち込み、使用することもできる。食事の際に、職員は利用者と同じテーブルに座り、会話を楽しみながら、同じ食事を一緒に摂ることができている。必要に応じて、職員は見守りやサポートをしている。ホールから見える場所にキッチンがあり、音や匂いが漂うなど、重度な利用者も調理の様子を感じることができる。また、栄養士のアドバイスまでは受けることはできていないものの、食の形態や内容などを職員間で話し合うとともに、1週間以内に、同じおかずの提供が続かないように工夫をしている。
		b	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	干し柿作りや収穫した野菜を切ったりなど出来る事を手伝ってもらい自信に繋がっている				
		c	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	一人一人の苦手な食べ物や、アレルギーについて家族や本人に聞き把握している				
		d	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	季節の行事に合わせたメニューを提供している。野菜は、旬の食材を提供している			◎	
		e	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサーや刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者ひとり一人に合わせた調理方法、食形態にして提供している				
		f	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人の力に合わせて、軽い食器やスプーン等を使用してもらっている			◎	
		g	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	利用者と同じテーブルを囲んで、同じ食事を一緒に食べながら、見守り介助を行っている			◎	
		h	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	リビングと食堂から見える所に対面キッチンがあり、調理の匂いや音を感じてもらいながら、食事を楽しみに待ってもらっている	○		◎	
		i	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一人一人に合った食事の量や食形態にしている				
		j	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事の量が少ない時には、声掛けをおこなったり、食事の形態を変えたりして食べてもらえるよう工夫している				
		k	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	季節の食材を出来る限り使用し、バランスの良い献立を心掛けている			○	
		l	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食器は洗浄後毎回乾燥機にかけている。まな板は、ハイター消毒を行い、衛生管理に努めている				
		m							

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	リハビリ体操の中に口腔ケア体操を取り入れたり、食事前に口腔体操を行っている				口腔内の異常の訴えがある場合は、歯科医の往診を依頼し、適切な治療に繋げることができている。毎食後に、職員は声をかけて、利用者につき添い、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。利用者自身で、できる部分は磨いてもらい、利用者の状況に応じて、仕上げ磨きを手伝ったり、義歯を外して洗浄をしたりしている。また、定期的に、一人ひとりの利用者の口腔内を確認し、健康状況を把握している。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時には、スタッフが付き添いながら、口腔内の状況を把握している					○
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	口腔内の不具合や訴えのある利用者は、歯科通院し正しい口腔ケアの方法について学び、日常の支援に繋げている					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後義歯洗浄し、就寝時にボリデント洗浄や超音波洗浄を行っている					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	食後の口腔ケア時にチェックし、清潔保持に努めている。異常がある時は、歯科通院し対応している					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	一人一人の排泄状態を確認し、尿意のない方には、声掛け誘導し、汚れたパンツパッドで過ごす事が無いようにしている				原則として、事業所では、利用者がトイレに座って排泄できるよう心がけた支援に取り組んでいる。排泄チェック表を活用して、一人ひとりの利用者の排泄状況を把握し、早めの声かけやトイレ誘導などの支援をしている。中には、布パンツで過ごすことのできている利用者はいるものの、ほとんどの利用者は紙パンツを使用している。立位が取れず、おむつで対応せざるを得ない1名の利用者もいる。また、夜間に歩くことを嫌い、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。さらに、排泄状況に応じて、パッドや紙パンツの排泄用品の適切な使用を職員間で話し合い、家族等に相談の上で使用をしている。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	嚥下医や看護師から、便秘等についてアドバイスを受けながら対応している					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表や状況表に記録し、排泄パターンの把握に努めている					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレで排泄できることを基本とし、尿量に応じたパッドを使用している		◎			◎
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	疾病の把握、食事の検討、水分補給に気を付け、嚥下医と相談しながら改善できるように取り組んでいる					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表や状況表に記録し、その人に合った時間に声掛け誘導している					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	排泄チェック表や状況表に記録し、尿量や時間帯を話し合い、パッドを選んでいる					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	一人一人の状態に合わせて、パッドや紙パンツを使用してもらっている					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	毎日のリハビリ体操や水分摂取、食材の工夫(バナナ・ヨーグルト等)で自然排便を促している					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	週に2回以上入浴できるようにしている。拒否された時は、時間や日を変えて、気持ちよく入浴してもらえるように対応している			◎	○	週2回以上、利用者が入浴できるよう支援している。中には、入浴回数の増を希望し、週3回以上入浴する利用者もいる。中には、入浴を拒む利用者もいるものの、声かけのタイミングや職員を変えるなどの工夫を行い、少なくとも週2回は入浴してもらっている。入居後に1か月間続けて、入浴を拒み続けた利用者もおり、試行錯誤した職員の声かけなどの工夫により、現在は入浴してもらえるようになっている。また、利用者の希望に応じて、湯の温度や湯船に浸かる長さなど、柔軟に対応をしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	ひとり一人がゆっくり入浴できるように見守り支援している					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	浴室内にある手摺りやシャワーチェアを使用し、安心して入浴できるように支援している					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒否された時には、時間や日を変えて気持ちよく入浴してもらえるように対応している					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	毎朝バイタルを測定し、体調が悪い時は入浴を中止したり、入浴前に再度バイタルを測定してから入浴してもらっている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	介護記録に睡眠状態を記録して睡眠パターンを把握している	/	/	/	事業所では、安易に服薬に頼ることなく、レクリエーションや体操、野菜作りなどの日中の活動量を増やしたり、外気浴を取り入れたりするなど、夜間に利用者が良眠できるよう支援している。中には、心療内科に通院し、眠剤等を服用している利用者もいるが、状況を伝えて医師に相談し、減薬にも努めている。時には、不穏で騒ぐ利用者もおり、医師に相談し、服薬に繋がることもある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜眠れない利用者については、日中の活動量を増やしたり、レクリエーション活動や体操を行っている	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	不眠時には、戸外に出たり日中の活動量を増やしたりしている。不眠が続く場合は、嘱託医や専門の医療機関に通院し対応している	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	いつでも自室で休めるようにしている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人や家族からの要望に応じ、電話や手紙、ライン電話でのやり取りを行っている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	要望があった時は、電話や手紙、LINE電話で会話を楽しめるよう支援している	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	要望があった時には、自室で気兼ねなく電話できるようにしている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	届いた時すぐに本人に渡したり、代読したりしている。要望があれば、返信出来るよう対応している	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	入居時に電話をかける事、かける範囲について家族等に確認している。二か月に一回、写真付きの手紙を家族に送っている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	個人でお金を所持している人はいないが、必要な物を購入する大切さは理解している	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	買い物に行く時は、買い物先での協力を得ている	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	入居時や面会時に、家族や利用者にお金の所持について確認を行っている。施設でお金を預り、代行で買い物をしている人もある	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時にお金の所持方法について確認を行っている	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	施設でお金を預かる場合は、預り金規程の説明を行い、家族に出納帳のコピーを毎月送付している。面会時には、出納帳の確認を行っている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	嘱託医の受診、町内外の専門病院への通院、理美容の利用等、個々の希望に添った支援を行っている	◎	/	◎	コロナ禍や感染対策が続き、外出や面会などの制限が設けられていたが、緩和され、利用者や家族から出された要望には、柔軟に対応できるようになってきている。現時点で、要望をいう利用者等は少ないが、自宅に衣服を取りに帰ったり、法事やお墓参りに出かけたりするなどの支援もできている。また、入居前からのかかりつけ医との関係を断ち切らないように、市外への通院の同行支援を行うこともある。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	明るく広い空間の玄関で、気軽に出入り出来るようにしている	◎	◎	◎	敷地内にベンチが配置され、利用者や来訪者がホッと一息つける場所になっている。また、畑のほか、鉢植えて野菜やパンジーなどの花が育てられ、明るく家庭的な雰囲気も感じられる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない狭風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	玄関、リビングには、季節の花を利用者の家族や職員が持ち寄り飾り付けている。共有のスペースには、利用者の作品や写真などを掲示している	○	◎	◎	日中に落ち着いた曲調の音楽が流れられ、共用空間には職員が持参した花のほか、利用者の作品や季節の飾り付けが飾られ、明るく穏やかな雰囲気づくりが行われている。また、リビングの窓から、広い田畑や山々を眺めることができる。また、日々利用者と一緒に共用空間の清掃や整理整頓を行い、隅々まで清潔が保たれるとともに、訪問調査日には、不快な音や光、匂いが感じられず、快適さも感じられる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	常に清潔保持が保てるよう、毎朝清掃を行っている			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	共有スペースには、季節の花や飾り付け等を行い季節を感じてもらえる空間作りを行っている			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う利用者同士で会話を楽しめるように席を考えたり、独りになれる居室にいつでも行けるよう対応している				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に使い慣れた物を持参してもらったりして、居心地よく生活してもらえるよう工夫している	◎		○	居室にはテレビや家具などの使い慣れた物を持ち込むことができ、必要に応じて、職員と利用者が一緒に相談をしながら配置するなど、居心地の良い空間づくりを支援している。中には、レクリエーションの際に作成したパズルや塗り絵のほか、家族写真が飾られている居室もある。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	ホーム内は、安心して生活できるようバリアフリーで随所に手摺りの設置をしている。各居室、トイレには、分かりやすいように目印をつけ、自立した生活が送れるように工夫している			◎	トイレを「御手洗・便所」などのプレートを貼り、利用者に合わせて、分かりやすく表記するなど、混乱をせず、自立した生活送れるよう支援している。中には、写真や絵を居室の入り口に貼り、認識できるようにしている利用者もいる。
		b	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌、新聞はいつでも読めるようにしている。裁縫道具や掃除道具等は、要望があれば使用できる様にしている				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること)の異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	日中は、玄関施錠は行わず、自由に戸外に出て外気浴をしてもらっている。徘徊防止、防犯のためにセンサーや防犯カメラを必要な所に設置している	◎	◎	○	職員は、鍵をかけることの弊害を理解し、日中に玄関の施錠はしていない。2階と1階を往来する場所に設置されている扉には、利用者の階段からの転落防止のために施錠をしている。また、出入り口には、センサーチャイムが設置され、職員は利用者や来訪者の出入りを認識しやすくなっている。さらに、「外に出たい」と利用者から希望が出された場合には、職員が付き添い、一緒に事業所周辺を歩くなどの対応を行い、気持ちが悪くなくよう支援している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族から施錠の要望があっても、日中は、センサーや防犯カメラで見守りを行っていることを伝え理解してもらっている				
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居時に医療連携シート、主治医意見書等を確認し把握している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎朝バイタルチェックを行い、日常の様子、入浴時の全身観察等を行い、異常がある時は、介護記録や引き継ぎ書に記入し管理者に報告している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になることがある時は、嘱託医に直ぐに相談したり、通院し対応している				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居時に嘱託医の説明を行い、専門医やかかりつけ医からの診療情報提供を受けて対応している。希望する医療機関で診療できるよう対応している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	かかりつけ医に紹介状を書いてもらい、専門的な医療を受けられるよう対応している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	原則、町外への通院は、家族に対応してもらおうとしている。受診後病状についての説明や報告を行っている。入院時には、家族にも来てもらい対応している				



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際は、医療連携シートを活用し、施設での生活状態の情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中に地域連携室と情報交換を行いながら、施設での生活が早期に出来るよう努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	看護師に利用者の状態が分かりやすいように、連絡ノートを活用したり、かかりつけ医にいつでも相談出来るようにしている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護職もしくは嘱託医に24時間いつでも気軽に相談できる体制が出来ている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	月に一回の訪問診療時に状態の報告や、状態が変化した時は、適切に診察・治療に繋げている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	個人の処方箋を確認し、用法や副作用について確認している。本人の状態変化や経過などを介護記録に記録し、家族や嘱託医、看護師等に報告している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬時には、必ず薬の名前、薬の数、服薬時間を声に出して、本人確認しながら服薬援助している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	服薬後の状態や変化を介護記録に記録している				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に終末ケアが出来る体制ではないことを説明している。状態に変化があった時は、その都度家族の意向を確認しながら、状態に合った医療機関や施設への支援を行っている				事業所として、「看取り指針及び対応マニュアル」を整備しているものの、人員や支援体制が十分に整っておらず、これまで看取り支援は行われていない。また、利用者の重度化に伴い、家族等に他の施設や病院での対応となることを再度伝えるとともに、可能な範囲で、事業所での生活を送り続けられるような支援に努めている。さらに、終末期を迎えた場合には、医師に相談や確認をするとともに、職員から丁寧に説明して家族の意向を確認するなど、医療機関や他施設への転居支援が行われている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	重度化・終末期の対応を希望される家族もあるが、施設の体制が整っていない旨を伝えている。嘱託医や医療機関にも方針を伝え、そのことを理解してもらいながら対応している	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期ケアが出来る体制ではないが、職員の思いや力量を把握し、嘱託医と相談しながら対応している				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時や状態が変化したときには、その都度家族に説明し、対応方針について理解を得ている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を固めながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	医療的処置が必要な時は、通院、入院治療を行っている。重度化しても日々の生活が、より良く暮らせるよう、家族や医療機関と連携を固めながら対応している				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	重度化、終末期をどう迎えるのか、家族の意向や心情を話し合いながら対応している				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	内部研修会を定期的に開催し、感染症や予防策について学んでいる				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	定期的に感染症対策の研修会を開催し、マニュアルの確認、見直しを行っている				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	行政、医療機関、インターネット、テレビ等や嘱託医から感染状況を入手し、感染対策に努めている				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時や外出時には、玄関で手指消毒、手洗いを徹底して行っている。利用者や来訪者にも同じ対応を行っている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	あいの里の理念に基づき、助け合いながら楽しく過ごせるよう、家族に協力してもらいながら対応している	/	/	/	コロナ禍や感染対策が続き、面会や外出などの家族との交流が制限されていたが、コロナの5類移行に伴い、家族会を再開するとともに、家族との外出も可能となっている。今後は、徐々に家族が参加できるような行事やイベントの開催が再開されていくことも期待される。また、タブレットを活用したオンラインの面会に対応するほか、玄関スペースや敷地内に置かれたベンチでの面会が対応できるようになり、利用者や家族に喜ばれている。来訪時や電話連絡時などの際に、家族から意見や要望を聞き取るように努め、「入れ歯が黒ずんでいる」などの気づきや細やかな意見が出されるなど、遠慮なく意見を伝えてもらうことができている。さらに、2か月に1回、写真を多く取り入れた事業所便りを発行するとともに、担当職員がコメントに写真を添えて送付するなど、利用者の情報を伝え、家族との情報共有を図っている。SNSのLINEを活用して、動画や写真を送付し、利用者の近況を伝えるなど、希望する手段で連絡を取り合う家族もいる。加えて、運営推進会議の議事録も全ての家族に送付し、事業所の出来事や人事異動などを周知することもできている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	年に1回家族会を開催し、行事の手伝いをしてもらったり、家族同士の交流の場を設けている	○	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等」)	◎	定期的に広報誌を送付している。定期的に写真付きの近居報告を手紙にして送付している。LINE電話で会話したり、LINEで日常生活の様子を家族に送っている	◎	/	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入所時や面会時に、これまでの家族との関係を確認し、より良い経験が継続できるよう支援している	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	広報誌を定期的に送付したり、運営推進会議録を送付して、運営上の事柄を報告している	○	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	起こり得るリスクについて、家族等に説明し、定期的にケアプランを見直し、抑圧せずに生活してもらえるようにしている	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	定期的に担当者からのお便りを通じて連絡等を行っている。面会時や電話、LINE等で家族からの意見、要望等を聞いて対応している	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入居契約時に、内容の説明を行い、理解を得ている。内容の変更時には、文書で説明を行い理解してもらっている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居事項に該当する事由に至った場合には、具体的に家族に説明し、スムーズに退居先に移れるように支援している	/	/	/	
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議のメンバーとして、近隣住民の方に参加してもらい、運営状況、活動等を報告している	/	◎	/	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の組に入り、日頃から地域の方との関係を深めている。散歩時には、地域の方から声をかけてもらっている	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	○	散歩時に声をかけてもらったり、季節の野菜や山菜を頂いたりしている	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	地域の人が気軽に来て交流してもらえるホールがあるが、今は、感染対策で出入りをお断りしている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	近隣の人に声を掛けてもらったり、戸外にいる時、話に来てもらったりしている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	夜間想定避難訓練に参加してもらい、利用者の状態を見てもらい、支援してもらおう働きかけしている	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	夜間想定避難訓練時には、地域の方や消防署、包括の方にも参加してもらい、利用者との関係を深めている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	年6回の運営推進会議を開催し、利用者の家族や地域住民に参加してもらっている	○	/	○	コロナ禍が続き、運営推進会議も書面開催が続いているが、今後、管理者は「地域住民や家族等に参加を呼びかけて、集合形式の会議を再開したい」と考えている。日頃から、家族等と連絡を取り合うなど、細やかな情報共有等が行われ、管理者等は意見や意向を把握するとともに、書面開催でも意見交換を行うことができている。また、外部評価のサービスの評価結果や事業所の活動報告等は議事録に残し、全ての家族へ送付し、情報共有を図っている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	運営推進会議開催時に、自己評価、外部評価の内容、目標達成計画の内容等報告している。会議で出された意見や提案等の結果も、次回開催時に報告している	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	開催日程を事前に連絡を入れ、主に平日の昼間に開催している	/	/	◎	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念は、玄関やリビングなど目に付きやすい場所に掲示している。職員会開催時に全員で理念を唱和し、日々の業務に取り組んでいる	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関やリビングなど施設内の目に付きやすい場所に、理念を掲示している	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	年間を通して内部研修会を計画的に開催している。外部研修会も地域密着型サービス開催の研修会等に参加できるよう取り組んでいる	/	/	/	法人の会長は、よく事業所を訪れ、敷地内にある畑で野菜作りや収穫を行うこともある。施設長を兼ねる代表者は、管理者と一緒に事業所運営を行い、職員に声をかけて話を聞くなど、職員との良好な関係が築かれている。また、年間研修計画を作成し、毎月内部研修を実施し、職員のスキルアップを図っている。年1回、職員は自己評価を実施し、自らのケアの振り返るとともに、作成した自己評価表を代表者に提出し、意見などを伝える機会にも繋がっている。さらに、日頃から管理者は、職員とコミュニケーションを図ることを心がけ、就業状況や意向の把握に努めるとともに、職員から意見を伝えやすい風土が築かれている。職員の聞き取りから、「風通しが良い職場で、相談しやすい」などの意見が聞かれ、事業所として、働きやすい職場環境作りが行われ、長年働く職員も多い。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	年間を通して内部研修会を開催したり、実務者研修、認知症実践者研修を順次受講できるよう勤務を調整している	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年度末には、各個人で自己評価を行い、代表者に提出して。各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	愛媛県地域密着型サービス協会の会員となり、ネットワーク作りを行っている。市単位のネットワークに加入し、他の施設や包括、市役所と情報交換を行っている	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	日々の業務がスムーズに出来るよう、職員の意見を聞き勤務体制等工夫している	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	高齢者虐待防止について、年間を通して計画的に内部研修会を開催している。虐待の芽チェックリストを活用し、全職員に集計結果を踏まえ、見直しを行っている。発見した場合の対応方法や手順についても理解している	/	/	◎	委員会の中で話し合うとともに、年2回虐待防止研修を実施し、職員は不適切なケアの防止などを理解している。また、全ての職員を対象に、無記名で虐待チェックリストに記載してもらい、日々のケアの振り返るとともに、職員の虐待防止の意識づけに繋がっている。訪問調査日には、虐待チェックリストや研修資料、研修実施報告書を確認することができ、事業所全体で虐待防止に取り組む様子を窺うことができた。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の引継ぎ時やケア会議時、主任会で話し合っている	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	代表者、管理者は、職員から意見を聞き、改善策を職員会で報告し、職員のストレス改善に努めている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束について、年間を通して計画的に内部研修会を開催し正しく理解している	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	内部研修会において、具体的な事例を挙げて、身体拘束についての話し合いを行っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族から拘束・施設の要望があっても、それに対する安全対策、対応を行っていることを説明し、理解してもらっている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	制度についての研修会に参加したり、市や包括などに相談したりして理解できている。家族等に情報提供したり、包括に繋いだりしている				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	運営推進委員として地域包括センターの職員や社労士も参加してもらい、支援が必要な利用者が相談できる体制を作っている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	消防士による救急救命講習会を受けている。急変時におけるマニュアルを作成し、内部研修会などで見直し、勉強会を行っている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	消防士による応急手当や初期対応の訓練を受けている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故が発生した場合だけでなく、事故一手前の事例についても、ヒヤリハット報告書に記入し、職員間で情報の共有を行い、職員会でも報告し再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ケア会議で利用者ひとり一人のリスクについて検討し事故防止に詰めている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルに添って、苦情・問題が起きた時には対応している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が寄せられた時には、苦情対策委員会を開催し、該当者及び職員に苦情の内容を確認し、改善策を伝え解決している。苦情が寄せられた場合には、全職員に報告、話し合いを行い再発防止に努めている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対して速やかに対応し、苦情対策委員会でサービス改善策を検討し、本人、家族に改善策を報告し納得を得ながら、良い関係作りに行っている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	ご意見箱を玄関に設置して、意見を聞いている。家族会を開催し、家族だけの話し合いの場で施設についての要望、意見を出し合ってもらっている	◎		◎	
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	契約時に公的な窓口について説明し理解してもらっている				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	職員会には必ず参加し、職員の意見や要望・提案等を聞く機会をつくっている				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員会やケア会議に参加し、職員一人一人の意見や提案等を聞きながら、利用者本位の支援が出来るよう検討している				○
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1回全職員で自己評価に取り組み、改善に向けて取り組んでいる				
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価の結果を踏まえて、課題や指摘事項に対して職員会等で議題として取り上げ、話し合いやユニット会で改善策を検討している				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果と目標達成計画を運営推進会議で報告し、助言や意見を聞いている。家族にも評価結果等を報告し取り組みの協力をお願いしている	○	◎	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	職員会や運営推進会議で取り組みの成果を確認している				

日々の生活の中で、担当職員を中心に、利用者から意見を聞き、対応をしている。家族には、面会時や電話連絡時のほか、再開された家族会の中で、職員から声をかけ、意見や要望を聞いていることもあり、気兼ねなく意見を伝えてもらうことができています。また、管理者は、各委員会やユニット会議に参画し、職員一人ひとりの意見や提案を聞き、利用者のより良い支援や事業所運営の中に反映をしている。

運営推進会議を通して、外部評価のサービスの評価結果や目標達成計画等を、参加メンバーや家族に伝えることができています。また、全ての職員で自己評価に取り組み、ユニット毎に管理者等が取りまとめで、作成をしています。会議の中で、評価結果等の意見をもらうことはできているが、議事録にまでは記載されておらず、コロナ禍が続いたこともあり、目標達成への取り組み状況のモニターの呼びかけまでには至っていない。今後は、会議の中で出された意見を記載した議事録を作成して家族等に送付したり、モニターを呼びかけて意見をもらったなど、さらなるサービスの質の向上に繋げていくことも期待される。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	様々な災害マニュアルを作成し、内部研修会や消防署立ち合いの研修会を実施している	/	/	/	事業所として、災害マニュアルを整備するとともに、年2回避難訓練を実施している。家族会や運営推進会議に合わせて訓練を実施し、地域住民でもある参加メンバーや家族と一緒に合同訓練を実施したり、訓練の様子を見てもらい、意見交換を実施したりするなど、連携を図りながら、災害への備えの理解促進に努めている。また、代表者を中心に、BCP(事業継続計画)の作成に着手し、令和6年3月までの計画の策定を目指している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	夜間を想定した避難訓練を地域住民や、家族、消防署立ち合いで実施し指導してもらっている。その際、地域住民や全職員への通報訓練も実施している	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	施設内にスプリンクラー設備を設置し、定期的に点検を行っている。非常用食料、備品の点検を定期的に行い、敷地内に消火栓を設置し、避難経路の点検を行っている	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年に2回避難訓練を実施し、夜間想定した避難訓練時には、消防署や地域住民、運営推進委員や家族にも参加してもらい協力を得ている	○	◎	◎	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	市や県で実施している訓練に参加している。原子力災害時の受入れを市から依頼されている	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症SOSネットワーク模擬訓練に参加している。地域で解されている認知症対策研修会に参加し、職員会で研修内容を報告している	/	/	/	入居希望などで、地域住民が来所した場合や、相談が寄せられた場合には、管理者等が快く対応をしている。緊急の相談が寄せられた場合には、相談内容に応じて、適切に市行政や地域包括支援センターに繋げている。コロナ禍や感染対策が続き、事業所の活動には制限が設けられているが、認知症SOSネットワークの訓練やオレンジサークル、地域のバザーなどへの参加協力を通して、地域活動の協働に努めている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	入所申し込みに来られた家族等から相談を受けた時は、入所までの支援サービス事業所に繋げている	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	コロナ禍までは、交流ホールに設置してあるカラオケを地域の方に利用してもらったり、イベントに招待し利用者との交流をしてもらっていた	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	受入体制は出来ているが、希望者がいない	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市や包括の認知症サークルに加入し、地域のイベントに参加している。認知症SOSネットワーク模擬訓練に参加している	/	/	○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 11 月 15 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3891400016
事業所名	グループホームあいの里
(ユニット名)	ひまわり
記入者(管理者)	
氏名	萩尾 弥生
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 30 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 あいの里はみんなが一つの家族です。助け合い、支え合い、励まし合い、温かな、明るい笑顔のある家庭を目指します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・利用者ひとり一人の暮らしや様子や個別に支援した内容の記録が少ない。スタッフ間で内容の統一が出来ていない。利用者の発する言葉や表情など具体的な記録が少ない。職員間の差をなくす。 目標：マンネリ化を防ぎ、日々の様子、言葉、表現など具体的に記録に残す。ひとり一人の日々の様子を具体的に記録に残すようにする。 結果：職員間で記録内容を検討し、統一できるようユニット会等で話し合った。介護記録の書き方を話し合い、利用者の発する言葉を書き、スタッフ間で確認できるようにした。 ・重度化、終末期のあり方についての方針を共有できていない。 目標：出来る限りホームで過ごせるよう支援する。 結果：職員会で終末期ケアの研修を行っていく。医療機関と連携を取りながら支援していく。日常生活の中で、終末期のあり方について、本人や家族と話し合い対応していった。 ・災害を想定した避難訓練を年2回実施しているが、家族から災害時の対応などの理解が低い。 目標：災害時の対応を日頃から訓練していく。家族にも災害時の対応を周知してもらう。 結果：災害を想定した訓練の様子を広報誌等に掲載し、家族への手紙で発信した。運営推進会議開催時や家族会開催時に、避難訓練を実施した。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 広々とした田畑に囲まれ、高台にある事業所は、窓から山々を眺めることができるなど、利用者は自然を感じながら、ゆったりとした生活を送ることができる。敷地内にある畑では、利用者に手伝ってもらいながら、様々な種類の野菜や花が栽培され、成育や収穫作業を利用者は楽しみにしている。隣地にある畑の持ち主が、利用者の知り合いという縁から、交流も行われている。コロナ禍以前には、事業所に増設したステージのある交流館を活用して、カラオケ大会を開催したり、演芸のボランティアを招いたりするなど、近隣住民との交流を兼ねたイベントの場として活用されていたこともあり、管理者は、「感染対策の制限緩和に伴い、交流館を活用した活動を再開したい」と考えている。また、感染対策が緩和され、家族会が再開されたほか、タブレットを活用したオンライン面会や、玄関スペースや屋外を活用した対面の面会にも対応できるようになっている。訪問調査日の職員の聞き取りから、「風通しが良い職場で、相談しやすい」という意見を聞かれるなど、代表者や管理者を中心に、働きやすい職場環境作りが行われ、長年働く職員も多くなっている。</p>
---	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	毎日の申し送りや月1回の職員会のカンファレンスで話し合い個々の希望や意向の把握に努めている	◎	/	◎	入居前に、管理者等は利用者や家族と面談を行い、思いや意向などの聞き取りをしている。また、日々の関わりの中で、利用者から思いを聞くことも多い。重度の利用者には、職員から積極的に声をかけ、表情や行動から思いをくみ取るよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	把握が困難な場合は普段の生活の様子から推測し検討している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会時や電話で家族の思いを聴いているがコロナ禍で面会が減り思うように話し合いができていない人もいる	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	サービス計画書を作成し本人の意向を聴き記録に残し共有している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	生活全般の解決すべき課題として担当者がモニタリングをし職員全員で話し合いをしている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	今までに使用していた馴染みの物や生活習慣などを職員の現在の生活に取り入れている	/	/	◎	入居前に、家族に生活歴などの基本情報を記載してもらっている。入居時にも、アセスメントシートを活用して、利用者や家族から生活歴やこだわりなどの情報を聞いている。また、把握した内容はアセスメントシートに取りまとめ、職員間で共有している。さらに、日々の生活の中で、利用者から新たな情報を聞くこともあり、新たに知り得た情報はアセスメントシートに赤字で追記することができている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	本人の意思を尊重しながらレクリエーションや体操・お手伝いなど参加できる様支援している	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの生活の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	24時間の排泄・食事・睡眠・行動を記録し現状把握に努めてかかわりを持つようにしている	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カンファレンスで話し合い検討している	/	/	/	○ 事前に把握した利用者や家族の意見のほか、職員から出された意見を集約し、月1回実施する職員会議やユニット会議を活用して、職員間で利用者の視点に立ち、良い支援に向けて検討をしている。訪問調査日には、一人ひとりの利用者に対して、課題の解決策等を検討した会議録を確認することができた。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	定期的にモニタリングを行いカンファレンスで話し合っている	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人から意見を聞いたり普段の生活の中からくみ取るようにしている	/	/	/	○ 事前に、利用者や家族から意見を聞くほか、医師に相談して指示やアドバイスをもらい、把握した情報をもとに、月1回のユニット会議の中で話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。また、話し合われた内容は、担当者会議の記録に残し、利用者から出された意見を内容に反映することもできている。コロナ禍や感染対策が続いたこともあり、家族等の参加を促しているものの、会議への外部からの参加は少なく、事前に意見を聞くことが多くなっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族の意見を反映できるよう職員で話し合っている場合により主治医や看護師の意見も反映できるようにしている	/	/	/	
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	できる限りここの生活が続けられるよう考えている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の協力や地域包括にも協力してもらえるようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケア会議で話し合い共有している	/	/	/	○ 介護計画は個別ファイルに綴じられ、職員はいつでも確認することができるようになっている。計画をファイルに綴じる前には、必ず職員に回覧し、内容を周知するようにしている。また、介護記録の様式には、上段に介護計画が転記され、留意事項を記載するなど、職員が計画やサービス内容を確認しやすいように工夫されている。さらに、評価欄が設けられ、サービスの実施の有無を○×印を付け、日々計画に沿ったケアが実践できたかどうかを確認している。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	個々の介護記録にケアプランを記載し毎日評価できるようにしている	/	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間内に担当者がアセスメントを行っている	/	/	/	◎	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月末に担当者が評価を行い現状把握をしている	/	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	ケア会議時や改善点が発生した場合は随時話し合いより良い支援ができるよう計画を作成している	/	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ケア会議で話し合い共有しているが、緊急の場合は数人で話し合うこともある	/	/	/	◎	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員会・ユニット会で忌憚のない話し合いや意見交換をしている	/	/	/	◎	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	月末の決まった日のPM6:30から開催している。夜勤者以外は参加している。参加できない職員には議事録を回覧し内容の共有ができるようにしている	/	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	勤務交代時には口頭で申し送り、記録の確認をしている。他の申し送り事項は申し送りノートやプリントを活用し職員全員が情報が共有できるようにしている	◎	/	◎		
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者に声かけ毎日ではないが「したいこと」が行えるよう努力している	/	/	/	/	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	洋服選びやレクに参加する場でも自己決定ができる機会を作っている	/	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	常に声かけをして何事も強制しないよう本人のペースを大切にしている	/	/	/	/	
		d	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	笑顔になるようなレクを考え楽しく参加できる様考えている	/	/	/	◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	利用者に寄り添い行動を見守りながら本人の意向に沿えるようにしている	/	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	職員会・内部研修で不適切な介護や声かけをしていないか反省し考えるようにしている	○	○	○	レクリエーションへの参加の有無、飲み物の種類や温度、着る服など、様々な生活の場面で、職員は利用者に声をかけ、自己決定を促せるよう支援している。また、食器拭きや洗濯物たたみなどを手伝ってもらった場合には、職員から、「ありがとうございました」と必ずお礼を伝え、日々利用者が生き活きた生活を送れるような配慮も行われている。  年2回、人権や尊厳などをテーマに取り上げて内部研修を実施し、職員は理解をしている。気になる言動が見られた場合には、職員同士で注意し合うなどの対応をしている。また、職員は居室を利用者のプライバシーのある空間と認識し、必ず入室する際に、ノックや声かけをしてから入室できるように、職員への周知徹底が図られている。	
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄時、入浴時には扉やカーテンを閉めプライバシーに配慮している	/	/	/		
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入る時はノック、声かけをしてお断りをするようにしている	/	/	/		◎
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報は外部に漏らさないよう掛けている	/	/	/		/



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	お手伝いができる人には協力して頂き必ず「ありがとうございました」「たすきました」のお礼を言うようにしている				食卓やソファが置かれた共用空間で、言い合いなどのトラブルが発生しやすく、利用者の配席を考慮したり、トラブルが起こりそうな場合には、職員が早期に間に入るなど、見守りながら、未然に防げるよう取り組んでいる。また、トラブル防止のため、利用者同士の関係性や性格を考慮し、食事の際などの席替えを行うこともある。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	立場の弱い利用者に優しい声かけをして下さる人もいる				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	仲の良い利用者さん同士がお話できるような座る場所など配慮している。孤立しがちな利用者さんには積極的に関わるようにしている				
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者同士のトラブルは場合によっては職員が間に入るようにしている				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や家族から話を聞いて把握できるようにしている				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	コロナ禍で家族以外の人と会うことができていない。馴染みのお店に買い物に行けるよう支援している				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	家族と一緒に通院や買い物、自宅にて食事をされる方もおられる。戸外に出たり散歩を希望される時には同行し支援している	○	○	○	日頃から、屋外に出て外気浴や体操をしたり、敷地内にあるベンチに座っておしゃべりしたり、事業所周辺の散歩に出かけるなど、利用者が気分転換を図れるよう支援している。敷地内にある畑で、法人の会長と一緒に、野菜作りを手伝う利用者もいる。また、家族の協力を得て外出をしたり、季節ごとに自宅に帰って衣替えの服を取りに行ったりすることもできている。また、コロナ禍や感染対策が続き、外出制限も設けられていたが、対策が緩和され、年間の行事計画に沿って、季節の花を見に行くなど、徐々に以前のような外出支援ができるようになってきている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナ禍でボランティア等の協力は難しいが家族の方には協力して頂いている				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	利用者の状態や変化を職員全員で把握し一人一人に合ったケアができるよう努めている				事業所では、利用者のできることやできそうなことの把握に努め、可能な限り、できることは自分でしてもらっている。また、日常生活の中に、散歩や体操を取り入れるほか、基本的に利用者自らが洗濯物たたみをしてもらうなどの生活リハビリを取り入れ、利用者の心身機能の維持を図れるよう支援している。現在、1階の利用者は重度化に伴い、手伝いなどをしてもらうことが難しくなっているが、2階には、積極的に食器洗いやお盆拭きなどを手伝う利用者も多い。中には、自宅に帰ることを目標に、食器洗いやなどの家事に励む利用者もいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	現状の機能が維持・向上できるよう運動や体操など毎日行っている。排泄はトイレ誘導し気持ちよく過ごせるよう援助している				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	洗濯物量や食後のお膳拭きや台拭き・食器洗いなど日常の事として手伝って頂いている	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	各自が持てる力を発揮できるように生活の中で役割分担し職員と共に行い気分転換や楽しみにつながる様支援している				塗り絵やパズルなどのレクリエーションのほか、洗濯や掃除、食後の片付けなどの様々な場面で、職員は声をかけ、楽しみごとや得意な役割や出番を担ってもらえるよう支援している。訪問調査日には、主体的に食器洗いや清掃などの家事を行う利用者の様子を見ることができた。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	新聞を読む・塗り絵や脳トレ問題に取り組む・広告でゴミ箱を作るなど出来ることを楽しめるようにしている	○	◎	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	洋服は自分の好みで選ばれる方もおられる。洗面後は化粧水をつけ髪をとかして身だしなみをきちんとされる方もおられる				起床時に、職員は声かけ、自分で服を選び、身だしなみを整えることができる利用者もいる。洋服の汚れや整容の乱れが見られた場合には、利用者のプライドを傷つけないようにさりげなくフォローしたり、居室に移動して、着替えてもらったりするなどの対応をしている。また、重度の利用者も、居室のみで過ごすことなく、可能な限り、毎朝好みの服に着替えてもらい、共用スペースに出て過ごしてもらうなど、メリハリのある生活を送ってもらいながら、本人らしさが保てるよう支援している。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	利用者の意思を尊重し本人が決定できるようにしている					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声かけし本人の希望に添えるよう支援している					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	通院や外出・催し物への参加には本人の好みの洋服を一緒に選んで着て頂けるようにしている					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりかばーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	利用者の状態観察を怠らず優しい声かけでさりげない支援をしている	◎	○	○		
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	2か月に1回訪問美容で散髪している。美容師さんが利用者さんの好みを把握してくれている					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	寝る時、朝は更衣をし顔を洗う・髪をとかす等の整容ができるよう支援している					◎
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事は利用者の一番の楽しみであり健康のバロメーターである事を理解している					
17	食事を楽しむことのできる支援	a	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	買い物や献立は職員が行っている。畑の野菜の収穫や後片付け(お膳拭きや食器洗い)などは手伝って頂いている			○	以前のメニューを参考にし、利用者の好きなメニューを取り入れながら、管理者が一定期間の昼食の献立も作成し、夕食は調理担当相員と、朝食は夜勤者が献立を考え、順番に調理をしている。食材は買い出しに出かけるほか、業者に配達してもらい、敷地内の畑で収穫したレタスや大根、里芋などの旬の野菜を取り入れた食事は、利用者の楽しみに繋がっている。利用者の重度化に伴い、できることは少なくなっているものの、可能な範囲で食事の後片付けや調理の下ごしらえなどを手伝ってもらっている。アレルギーの有無は、入居時に確認し、苦手な食材を含め、代替の食材を用意することもある。食器類は、事業所で用意した使いやすい物を用意して使用するとともに、希望に応じて、自宅から使い慣れた物を持ち込み、使用することもできる。食事の際には、職員は利用者と同じテーブルに座り、会話を楽しみながら、同じ食事を一緒に摂ることができている。必要に応じて、職員は見守りやサポートをしている。ホールから見える場所にキッチンがあり、音や匂いが漂うなど、重度な利用者も調理の様子を感じることができる。また、栄養士のアドバイスまでは受けることはできていないものの、食の形態や内容などを職員間で話し合うとともに、1週間以内に、同じおかずの提供が続かないように工夫をしている。	
		b	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食後の後片付け(お膳拭き、台拭き、食器洗い等)は手伝って頂いている。食卓のゴミ箱の準備などもして頂いている					
		c	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	本人と家族の方から食べ物の好き嫌いやアレルギーの有無を聞き職員も周知している					
		d	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	◎	自家菜園で採れた旬の野菜を使いメニューも色々考えている。季節の行事に合わせて料理も提供している			◎		
		e	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	一人ひとりに合わせた食事形態にしている。咀嚼や嚥下困難な人には刻みやミキサー食で対応している。食べる意欲が見られる時は一口大など状態に応じて対応している					
		f	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	箸や茶碗、湯飲みは各個人の物を使用し、不都合のある方には軽い食器やスプーンを使用している			◎		
		g	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	利用者さんの傍らに座り同じものを食べながら見守り、支援をしている			◎		
		h	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	皆さん食欲旺盛で殆ど残食もなく食べられている。食事を楽しみにされ「この食事は何食べてもおいしいな」と毎回言われる方もおられる	○		◎		
		i	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	一人一人に適量を提供し体重維持も出来ている。水分も個々に応じて摂取できている					
		j	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事量・水分量は毎回チェックしており一日の水分摂取量の合計を出し記録している					
		k	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	昼食メニューは管理者が献立を立て、夕食は調理員、朝食は職員が献立を考えている。バランスを考え偏りがないようにしている			○		
l	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食器は洗浄後、乾燥機で乾燥している。まな板は都度塩素漂白除菌を行っている。手指は調理前にアルコール消毒を行っている							

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	勉強会や看護師の指導で重要性を理解している。口腔ケア体操にも取り組んでいる				口腔内の異常の訴えがある場合は、歯科医の往診を依頼し、適切な治療に繋げることができている。毎食後に、職員は声をかけて、利用者につき添い、歯磨きなどの口腔ケアを実施している。利用者自身で、できる部分は磨いてもらい、利用者の状況に応じて、仕上げ磨きを手伝ったり、義歯を外して洗浄をしたりしている。また、定期的に、一人ひとりの利用者の口腔内を確認し、健康状況を把握している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時は職員が付き添い見届けている			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	通院があれば指導を受け支援しているが、義歯の人はなかなか通院に繋がっていない				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎食後義歯洗浄をしている。夜間は外して頂いて、週1回ボリデント洗浄、超音波洗浄を行っている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後口腔ケアを実施している。舌の汚れが気になる人は舌みがきを実施している。異常が見られたら直ぐ管理者に報告し受診している			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	1人1人の排泄状況を把握してできるだけトイレで排泄できるよう支援している。パッド等の使用も心身にダメージを与えないよう気をつけている				原則として、事業所では、利用者がトイレに座って排泄できるよう心がけた支援に取り組んでいる。排泄チェック表を活用して、一人ひとりの利用者の排泄状況を把握し、早めの声かけやトイレ誘導などの支援をしている。中には、布パンツで過ごすことのできている利用者はいるものの、ほとんどの利用者は紙パンツを使用している。立位が取れず、おむつで対応せざるを得ない1名の利用者もいる。また、夜間に歩くことを嫌い、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。さらに、排泄状況に応じて、パッドや紙パンツの排泄用品の適切な使用を職員間で話し合い、家族等に相談の上で使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	日頃から主治医や看護師のアドバイスを受け便秘の影響について理解している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	毎日排泄チェック表と排便表に記録し把握している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	本人の訴えの無い場合は排泄時間を見計らってトイレ誘導をしている。一人一人の状態に合ったパッド等の選択を支援している	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	医師の指示の下、頻尿薬や緩下剤を有効に活用している。便秘予防の体操をしたり水分を摂ったりしている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	夜間のトイレ誘導や昼間は時間を見計らって声かけをしている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	個々の利用者の尿量と時間を話し合ってパンツ・パッド選びをしている。理解できる方には説明、アドバイスをしている				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	個々の排泄の状態を下着の人・紙パンツの人、頻度や尿量に応じパッドを使い分けている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	緩下剤を利用している人もいるが、自然に近い排便ができていると思う				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	ほぼ一日置きの入浴になっている。お湯の温度や入浴時間の長さなどは個人の好みに合わせている	◎		○	週2回以上、利用者が入浴できるよう支援している。中には、入浴回数の増を希望し、週3回以上入浴する利用者もいる。中には、入浴を拒む利用者もいるものの、声かけのタイミングや職員を変えるなどの工夫を行い、少なくとも週2回は入浴してもらっている。入浴後に1か月間続けて、入浴を拒み続けた利用者もおり、試行錯誤した職員の声かけなどの工夫により、現在は入浴してもらえるようになっている。また、利用者の希望に応じて、湯の温度や湯船に浸かる長さなど、柔軟に対応をしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	熱いお湯を好まれる方には追い炊きをし、ゆっくりと湯船につかれるよう見守りしている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	洗身・洗髪できることはして頂き、できない部分だけ支援するようにしている				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒まれた場合は無理強いせず本人の希望に添えるよう話をしている				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎朝健康状態を観察しており体調の悪い時は入浴を中止している。入浴前に再度健康状態の確認をしている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	一人一人の就寝時間や起床時間を把握している	/	/	/	事業所では、安易に服薬に頼ることなく、レクリエーションや体操、野菜作りなどの日中の活動量を増やしたり、外気浴を取り入れたりするなど、夜間に利用者が良眠できるよう支援している。中には、心療内科に通院し、眠剤等を服用している利用者もいるが、状況を伝えて医師に相談し、減薬にも努めている。時には、不穏で騒ぐ利用者もおり、医師に相談し、服薬に繋がることもある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中は午前と午後には体操やレクリエーションで身体を動かすようにしている	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日々の活動や支援内容、健康状態などを記録し主治医・専門医に相談しながら支援している	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	昼食後に自室で昼寝をされる方もいる。体調に応じて休まれる方もいる	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるよう支援をしている。	○	個人で携帯電話を所持されている方もおられ自由に家族と連絡を取っている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	一緒に手紙を書いたり要望があれば電話をかけるよう支援している	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	自由に電話をかけることもできるし取次ぎもしている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	必ず本人に手渡しを要望があれば代読、代筆をしている	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	携帯電話で自由に電話をされる方もいる。今はリモートで家族の顔を見ながら話ができるよう支援している	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金は管理者が預かっている。少額のお金を所持されている方もいる	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	要望があれば買い物に行けるよう支援している。家族と一緒にいける方もいる	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	入居契約時、家族と相談して少額の現金を所持されている方もいる。預り金は管理者が管理し希望に応じて使えるようにしている	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	所持金の管理方法については契約時に家族・本人と話し合っている	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居契約の折り説明し同意を得ている。出納帳の確認もしている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	コロナ感染が続いているため多様な対応が難しいが、家族との外出や外泊、通院など希望に応じて対応している	◎	/	◎	コロナ禍や感染対策が続き、外出や面会などの制限が設けられていたが、緩和され、利用者や家族から出された要望には、柔軟に対応できるようになってきている。現時点で、要望をいう利用者等は少ないが、自宅に衣服を取りに帰ったり、法事やお墓参りに出かけたりするなどの支援もできている。また、入居前からのかかりつけ医との関係を断ち切らないように、市外への通院の同行支援を行うこともある。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	周囲には野菜や季節の花を植え、垣根などなくオープンな雰囲気である	◎	◎	◎	敷地内にベンチが配置され、利用者や来訪者がホッと一息つける場所になっている。また、畑のほか、鉢植えで野菜やパンジーなどの花が育てられ、明るく家庭的な雰囲気も感じられる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に季節向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	共用スペースには行事等の写真や利用者の作品(塗り絵や貼り絵など)を掲示している。季節に合った飾り付けも工夫している	○	◎	◎	日中に落ち着いた曲調の音楽が流れられ、共用空間には職員が持参した花のほか、利用者の作品や季節の飾り付けが飾られ、明るく穏やかな雰囲気づくりが行われている。また、リビングの窓から、広い田畑や山々を眺めることができる。また、日々利用者と一緒に共用空間の清掃や整理整頓を行い、隅々まで清潔が保たれるとともに、訪問調査日には、不快な音や光、匂いが感じられず、快適さも感じられる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎朝の掃除をしている。定期的に窓を開閉し、換気を行っている			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の花々または季節に応じた装飾等を絶やさないように心掛けている			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	独りになれる自室やみんなと会話したりテレビ鑑賞ができるリビングと好みの場所で過ごされている				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	衣装ケース、小タンス、毛布等家で使用していた馴染みのものを持参して頂き使われている	◎		○	居室にはテレビや家具などの使い慣れた物を持ち込むことができ、必要に応じて、職員と利用者が一緒に相談をしながら配置するなど、居心地の良い空間づくりを支援している。中には、レクリエーションの際に作成したパズルや塗り絵のほか、家族写真が飾られている居室もある。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	ホーム内は安全に生活できるようバリアフリーで随所に手すりを付けている。各居室には各氏名をトイレには目印をつけ迷わないようにしている			◎	トイレを「御手洗・便所」などのプレートを貼り、利用者に合わせて、分かりやすく表記するなど、混乱をせず、自立した生活送れるよう支援している。中には、写真や絵を居室の入り口に貼り、認識できるようにしている利用者もいる。
		b	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	本棚を設置し雑誌・絵本などはいつでも手に取り読めるようにしている。新聞も目につき易い所に置いている。要望があればほうき等の道具類や裁縫道具も貸し出している				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らすこと、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	両脇の非常口は転倒及び転落の危険があるため施錠している。要注意箇所にはセンサーを取り付けている。玄関は日中は施錠せず、玄関先や敷地内は、自由に出入りできるようにしている	◎	◎	○	職員は、鍵をかけることの弊害を理解し、日中に玄関の施錠はしていない。2階と1階を往来する場所に設置されている扉には、利用者の階段からの転落防止のために施錠をしている。また、出入り口には、センサーチャイムが設置され、職員は利用者や来訪者の出入りを認識しやすくなっている。さらに、「外に出たい」と利用者から希望が出された場合には、職員が付き添い、一緒に事業所周辺を歩くなどの対応を行い、気持ちが落ち着くよう支援している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	玄関は夜間のみ施錠し家族にも説明している				
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入所時のアセスメントシート、退院時のサマリーを熟読するようにしている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	朝のバイタル日常の様子、入浴時の様子など記録に残し異常が見られる場合は管理者に報告している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	週1回看護師の訪問があり気になることは気軽に相談している。月1回かかりつけ医に訪問診療をして頂いている。また気になることがあれば電話で相談できる関係を築いている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	病状によっては専門医を受診している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	かかりつけ医の紹介状によってより専門的な医療が受けられるよう支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	管理者が家族の代理で通院をしている。病状によっては家族が同行したり家族が通院される場合もある。その都度連絡をするようにしている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際には担当看護師・医師に情報を提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	△	コロナ禍で入院されると面会ができない状態になっているが病院と退院に向けての相談は行っていた。病院、地域包括と密に連絡をとっている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	利用者の変化や気になる事があれば看護師に相談できるようにしている。かかりつけ医には管理者や看護師を通じて相談をしている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	日中・夜間を問わず看護師、協力医療機関に相談できる体制ができている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	何か状態の変化があればすぐにかかりつけ医に相談している。病状により専門医への受診ができるようにしている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	主治医の指示及び処方箋の確認をしている。薬の変更時には経過を記録に残し医師に報告している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	個別に1日分の薬を仕分け、投薬時には名前と何時の薬かを読み上げ飲み込めるまで確認している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	主治医と相談しながら薬の調整を行っている。緩下剤は下剤コントロール表で確認しながら薬の調整をしている				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態に変化が見られる場合、家族に連絡し相談している				事業所として、「看取り指針及び対応マニュアル」を整備しているものの、人員や支援体制が十分に整っておらず、これまで看取り支援は行われていない。また、利用者の重度化に伴い、家族等に他の施設や病院での対応となることを再度伝えるとともに、可能な範囲で、事業所での生活を送り続けられるような支援に努めている。さらに、終末期を迎えた場合には、医師に相談や確認をするとともに、職員から丁寧に説明して家族の意向を確認するなど、医療機関や他施設への転居支援が行われている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	できる限りホームで過ごしてもらっているが終末期ケアは難しい旨を家族には話している	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	現在は看取りはしていないが職員の力量を把握し準看取りと言える状態に対応している				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入院時や状態に変化があった時その都度対応について説明している				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度になった利用者は状態の変化に気を付けながら対応している。家族・かかりつけ医との連絡を密にし支援している				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の意向をできる限り受け入れている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	コロナ禍において感染症対策の勉強会を定期的に行っている				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症グッズをひとまとめにして直ぐに対応できるようにしている。年に1回不足分がないか確認している				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	管理者が常に情報入手し職員の耳に入るようにしている。コロナ禍において常に地域の感染状況を把握し対応していた				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	コロナ禍において手洗い・手指消毒・マスクの着用徹底していた。面会時には距離をとり利用者、家族もマスクの着用を徹底した				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	「皆一つの家族である」という思いで日々接している。家族に宛てたお手紙で利用者の様子を知らせている				コロナ禍や感染対策が続き、面会や外出などの家族との交流が制限されていたが、コロナの5類移行に伴い、家族会を再開するとともに、家族との外出も可能となっている。今後は、徐々に家族が参加できるような行事やイベントの開催が再開されていくことも期待される。また、タブレットを活用したオンラインの面会に対応するほか、玄関スペースや敷地内に置かれたベンチでの面会が対応できるようになり、利用者や家族に喜ばれている。来訪時や電話連絡時などの際に、家族から意見や要望を聞き取るように努め、「入れ歯が黒ずんでいる」などの気づきや細やかな意見が出されるなど、遠慮なく意見を伝えてもらうことができている。さらに、2か月に1回、写真を多く取り入れた事業所便りを発行するとともに、担当職員がコメントに写真を添えて送付するなど、利用者の情報を伝え、家族との情報共有を図っている。SNSのLINEを活用して、動画や写真を送付し、利用者の近況を伝えるなど、希望する手段で連絡を取り合う家族もいる。加えて、運営推進会議の議事録も全ての家族に送付し、事業所の出来事や人事異動などを周知することもできている。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	ここ数年コロナ禍のため家族参加の活動はできていなかったが今年の家族会では避難訓練と一緒に体験してもらった	○		○		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	2か月に1回担当者が写真入りのお便りを出し近況報告をしている。定期的に広報誌「あいの里便り」を送付している。リモート電話で話ができる体制も整えている。面会時やお手紙でも要望や意見を伺っている	◎		◎		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	コロナ禍のため家族との接点は減っているが面会時には日常の様子を伝えるようにしている					
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	報告すべき事柄についてはその都度報告し理解を得ている。また家族会のお話し合いの場でも詳細を報告している	○				○
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	行動が萎縮しないように命に係わること以外は抑圧せず見守るようにしている	○				
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	担当のお便りで意見や要望を伺っている。面会時にも要望を伺うようにしている。コロナ禍のため家族の入室をお断りしているが外のベンチでお話できるようにしている					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居時に説明をしている。変更時はお便りにて理解を得ている					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	家族とよく話し合い利用者にとって最も最適な方法を選択するようになっている					
<b>III. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進委員のメンバーとして近隣の方に参加して頂いて、運営状況や日々の活動状況を報告し、助言をもらっている		◎		事業所は自治会に加入し、地域活動に協力している。また、事業所周辺の散歩時には、積極的に近隣住民と挨拶することを心がけている。さらに、隣地にある畑の持ち主が、利用者の知り合いという縁から、交流に繋がったこともあり、小さな出会いや日頃からの交流を大切にしている。今後は、交流館を活用して、徐々に地域住民との交流が再開されていくことも期待される。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の自治会に加入し、日頃から地域の方と関係を深めている。散歩時には、地域の方に声を掛けてもらっている		○	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	○	散歩時には、声を掛けてもらったり、季節の野菜や山菜を届けてもらっている					
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	地域の方が気軽に来て交流してもらえるホールがあるが、今は、感染対策で出入りをお断りしている					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	近隣の人に声を掛けてもらったり、戸外にいる時、話に来てもらったりしている					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	夜間想定避難訓練に参加してもらい、利用者の状態を見てもらい、支援してもらおう働きかけしている	○				
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	夜間想定避難訓練時には、地域の方や消防署、包括の方にも参加してもらい、利用者との関係を深めてもらっている	○				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	年6回、運営推進会議を開催し、利用者の家族、地域住民に参加してもらっている	○	/	○	コロナ禍が続き、運営推進会議も書面開催が続いているが、今後、管理者は「地域住民や家族等に参加を呼びかけて、集合形式の会議を再開したい」と考えている。日頃から、家族等と連絡を取り合うなど、細やかな情報共有等が行われ、管理者等は意見や意向を把握するとともに、書面開催でも意見交換を行うことができている。また、外部評価のサービスの評価結果や事業所の活動報告等は議事録に残し、全ての家族へ送付し、情報共有を図っている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	運営推進会議開催時に、自己評価や外部評価の内容、目標達成計画の内容等報告している。会議で出された意見や提案等の結果も、次回開催時に報告している	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	開催日程を事前に連絡を入れ、主に平日の昼間に開催している	/	/	◎	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念は、ホームの玄関やリビングなど目に付きやすい場所に掲示している。職員会議時に全員で理念を唱和し、日々の業務に取り組んでいる	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関やリビングなど施設内の目に付きやすい場所に理念を掲示している	○	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	年間を通して内部研修会を計画的に開催している。外部研修会も地域密着型サービス型協会開催の研修会等に参加できるよう取り組んでいる	/	/	/	法人の会長は、よく事業所を訪れ、敷地内にある畑で野菜作りや収穫を行うこともある。施設長を兼ねる代表者は、管理者と一緒に事業所運営を行い、職員に声をかけて話を聞くなど、職員との良好な関係が築かれている。また、年間研修計画を作成し、毎月内部研修を実施し、職員のスキルアップを図っている。年1回、職員は自己評価を実施し、自らのケアの振り返るとともに、作成した自己評価表を代表者に提出し、意見などを伝える機会にも繋がっている。さらに、日頃から管理者は、職員とコミュニケーションを図ることを心がけ、就業状況や意向の把握に努めるとともに、職員から意見を伝えやすい風土が築かれている。職員の聞き取りから、「風通しが良い職場で、相談しやすい」などの意見が聞かれ、事業所として、働きやすい職場環境作りが行われ、長年働く職員も多い。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	年間を通して内部研修会を開催したり、実務者研修、認知症実践者研修を順次受講できるよう勤務を調整している	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年度末に各個人で自己評価を行い、代表者に提出している。各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	愛媛県地域密着型サービス協会の会員となり、ネットワーク作りを行っている。市単位のネットワークに加入し、他の施設や包括、市役所と情報交換を行っている	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	日々の業務がスムーズに出来るよう、職員の意見聞き勤務体制等工夫している	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	高齢者虐待防止について、年間を通して計画的に内部研修会を開催している。虐待の芽チェックリストを活用し、全職員に集計結果を踏まえ、見直しを行っている。発見した場合の対応方法や手順についても理解している	/	/	◎	委員会の中で話し合うとともに、年2回虐待防止研修を実施し、職員は不適切なケアの防止などを理解している。また、全ての職員を対象に、無記名で虐待チェックリストに記載してもらい、日々のケアの振り返るとともに、職員の虐待防止の意識づけに繋がっている。訪問調査日には、虐待チェックリストや研修資料、研修実施報告書を確認することができ、事業所全体で虐待防止に取り組む様子を窺うことができた。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の引継ぎ時やケア会議時、主任会で話し合っている	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	代表者、管理者は、職員から意見を聞き、改善策を職員会で報告し、職員のストレス改善に努めている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束について、年間を通して計画的に内部研修会を開催し、正しく理解している	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	内部研修会において、具体的な事例を挙げて、身体拘束についての話し合いを行っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族から拘束、施設の要望があっても、それに対する安全対策、対応を行っている事を説明し、理解してもらっている	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	制度についての研修会に参加したり、市や包括などに相談したりして理解できている。家族等に情報提供したり、包括に繋いだりしている				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	運営推進委員として包括の職員や社労士も参加してもらい、支援が必要な利用者が相談できる体制を作っている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	消防士による救急救命講習会を受けている。急変時におけるマニュアルを作成し、内部研修会などで見直し、勉強会を行っている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	消防士による応急手当の方法、初期対応の訓練を受けている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	細かい事例もヒヤリハットに記載し、全職員が目を通して。事故が発生した時は、事故対策委員会を開催し、職員会でも報告し、再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ケア会議等で利用者ひとり一人のリスク等について検討し、事故防止に努めている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルに添って、苦情・問題が起きた時には対応している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情が寄せられた時には、直ぐに苦情対策委員会を開催し、該当者及び職員に苦情の内容を確認し、改善策を伝え解決している。苦情が寄せられた場合には、全職員に報告、話し合いを行い再発防止に努めている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情に対して速やかに対応し、苦情対策委員会でサービス改善策を検討し、本人や家族に改善策を報告し納得を得ながら、良い関係作りを努めている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	ご意見箱玄関に設置して、意見を聞いている。家族会を開催し、家族だけの話し合いの場で、施設についての要望、意見を出し合ってもらっている	◎		◎	
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	契約時に公的な窓口について説明し理解してもらっている				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつけている。	◎	職員会には必ず参加し、職員の意見や要望・提案等を聞く機会を作っている				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	毎月職員会やケア会議に参加し、職員一人一人の意見や提案等を聞きながら、利用者本位の支援が出来るよう検討している				○
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年に1回全職員で改善に向けて、自己評価に取り組んでいる				
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	課題や指導事項は、職員会議で議題として取り上げ、改善の為話し合いをしている。速やかに目標達成計画を作成し、職員全員で改善できるよう努力している				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果を運営推進会議で報告し助言をもらっている。家族にも評価結果を報告し、取り組みへの協力をしてもらっている	○	◎	○	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	職員会や運営推進会議で、取り組みの成果を確認している				

日々の生活の中で、担当職員を中心に、利用者から意見を聞き、対応をしている。家族には、面会時や電話連絡時のほか、再開された家族会の中で、職員から声をかけ、意見や要望を聞いていることもあり、気兼ねなく意見を伝えてもらうことができています。また、管理者は、各委員会やユニット会議に参画し、職員一人ひとりの意見や提案を聞き、利用者のより良い支援や事業所運営の中に反映をしている。

運営推進会議を通して、外部評価のサービスの評価結果や目標達成計画等を、参加メンバーや家族に伝えることができています。また、全ての職員で自己評価に取り組み、ユニット毎に管理者等が取りまとめ、作成をしています。会議の中で、評価結果等の意見をもらうことはできていますが、議事録にまでは記載されておらず、コロナ禍が続いたこともあり、目標達成への取り組み状況のモニターの呼びかけまでには至っていない。今後は、会議の中で出された意見を記載した議事録を作成して家族等に送付したり、モニターを呼びかけて意見をもらったなど、さらなるサービスの質の向上に繋げていくことも期待される。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	様々な災害マニュアルを作成し、内部研修会や消防署立ち合いの研修会を実施している	/	/	/	事業所として、災害マニュアルを整備するとともに、年2回避難訓練を実施している。家族会や運営推進会議に合わせて訓練を実施し、地域住民でもある参加メンバーや家族と一緒に合同訓練を実施したり、訓練の様子を見てもらい、意見交換を実施したりするなど、連携を図りながら、災害への備えの理解促進に努めている。また、代表者を中心に、BCP(事業継続計画)の作成に着手し、令和6年3月までの計画の策定を目指している。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	夜間を想定した避難訓練を地域住民や家族、消防署立ち合いで実施し、指導してもらっている。その際、地域住民や全職員への通報訓練も実施している	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	施設内には、スプリンクラー設備を設置し、敷地内には、消火栓を設置し、避難経路の点検も行なっている。非常用食料、備品の点検を定期的に行っている	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年に2回避難訓練を実施し、夜間想定した避難訓練時には、消防署や地域住民、運営推進委員や家族にも参加してもらい協力を得ている	○	◎	◎	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	市や県で実施している訓練に参加している。原子力災害時の受入れを市から依頼されている	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症SOSネットワーク模擬訓練に参加している。地域で開催されている認知症対策研修会に参加し、職員会で研修内容を報告している	/	/	/	入居希望などで、地域住民が来所した場合や、相談が寄せられた場合には、管理者等が快く対応をしている。緊急の相談が寄せられた場合には、相談内容に応じて、適切に市行政や地域包括支援センターに繋げている。コロナ禍や感染対策が続き、事業所の活動には制限が設けられているが、認知症SOSネットワークの訓練やオレンジサークル、地域のバザーなどへの参加協力を通して、地域活動の協働に努めている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	入所申し込みに来られた家族から相談を受けた時は、入所までの支援やサービス事業所に繋げている	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	コロナ禍までは、交流ホールに設置してあるカラオケを地域の方に利用してもらったり、イベントに招待し利用者と交流をしてもらっていた	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	受け入れ態勢は出来ているが、希望者がいない	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市や包括の認知症サークルに加入し、地域のイベントに参加している。認知症SOSネットワーク模擬訓練に参加している	/	/	○	